

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年8月10日

**【四半期会計期間】** 第80期第2四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

**【会社名】** 新報国製鉄株式会社

**【英訳名】** SHINHOKOKU STEEL CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 成瀬 正

**【本店の所在の場所】** 埼玉県川越市新宿町5丁目13番地1

**【電話番号】** 049 242 1950

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役 森 善男

**【最寄りの連絡場所】** 埼玉県川越市新宿町5丁目13番地1

**【電話番号】** 049 242 1950

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役 森 善男

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第79期 第2四半期 連結累計期間	第80期 第2四半期 連結累計期間	第79期
会計期間		自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
売上高	(千円)	2,500,349	1,477,165	4,203,787
経常利益	(千円)	256,603	39,387	234,645
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失( )	(千円)	339,135	24,548	291,174
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	336,827	22,792	295,564
純資産額	(千円)	147,168	792,794	779,516
総資産額	(千円)	5,109,751	3,658,744	3,667,529
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額( )	(円)	107.41	7.78	92.22
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	2.9	21.7	21.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	431,614	32,746	650,986
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	19,982	88,460	1,056,312
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	471,627	116,756	395,952
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	93,992	144,378	83,336

回次		第79期 第2四半期 連結会計期間	第80期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( )	(円)	16.53	7.53

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため、また、第79期第2四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

3 第79期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4 第80期第1四半期連結会計期間から不動産賃貸収入及び不動産賃貸原価について表示方法の変更を行っており、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)を適用しております。当該表示方法の変更は遡及適用され、第79期第2四半期連結累計期間及び第79期連結会計年度の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表について遡及処理しております。なお、表示方法の変更の内容については、「第4 経理の状況 追加情報」に記載しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容の重要な変更は以下のとおりであります。また、主要な関係会社における異動はありません。

（事業の内容の重要な変更）

当社は、第1四半期連結会計期間より、不動産賃貸事業を主要事業の一つとしております。これは、当社の本社工場跡地の有効活用を図り、安定的収益を得る事を目的として、当社定款の事業目的を変更したことに伴うものであります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

第1四半期連結会計期間より、不動産賃貸収入及び不動産賃貸原価について表示方法の変更を行っており、遡及処理後の数値で当第2四半期連結累計期間の比較・分析を行っております。

また、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更の影響を含めております。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アメリカ経済の回復、震災復興需要、金融緩和等により、緩やかな回復基調にありましたが、原油価格の高騰、アメリカ経済の先行き不安、またヨーロッパ財政危機、それに伴うアジア経済の減速など先行きは極めて厳しい状況にあります。

このような状況にあって当社グループの経営状況は、ベース品である鉄鋼用工具は自動車関連や天然ガス掘削用シームレスパイプの好調に支えられ堅調に推移しましたが、主力製品である半導体露光装置用及び液晶露光装置用低膨張鋳鋼は受注見込みでは回復の兆しが見え始めたものの、当第2四半期連結累計期間の売上高は昨年後半からの停滞が継続し前年同期に比べ大幅に減少いたしました。

従いまして当第2四半期連結累計期間の売上高は1,477百万円と前年同期比40.9%の大幅な減収となりました。営業利益は大幅な売上高の減少により前年同期に比べ240百万円の減益となりましたが一部品種の価格は正効果と固定費の削減等徹底したコストダウンに努めた結果、7百万円の黒字を確保することができました。経常利益は営業外収益の保険差益及び助成金収入等により39百万円（前年同期比217百万円の減益）となりました。四半期純利益は固定資産除売却損14百万円を計上したため25百万円（前年同期は四半期純損失339百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

#### 鑄造事業

売上高は、ベース品である鉄鋼用工具は自動車関連や天然ガス掘削用シームレスパイプの好調に支えられ堅調に推移しましたが、半導体露光装置用及び液晶露光装置用低膨張鋳鋼は昨年後半からの停滞が継続し前年同期に比べ大幅に減少したことにより1,018百万円(前年同期比343百万円の減収)となり、営業利益は、主力である製造子会社の新報国製鉄三重の生産減による操業度損により営業損失40百万円(前年同期は営業利益126百万円)となりました。

#### 素形材事業

売上高は、半導体露光装置用及び液晶露光装置用低膨張合金が昨年後半からの停滞が継続し前年同期に比べ大幅に減少したことにより447百万円(前年同期比684百万円の減収)となり、営業利益は、コストダウンに努め57百万円(前年同期比56百万円の減益)となりました。

#### 不動産賃貸事業

売上高は、商業施設向け賃貸を開始したことにより13百万円(前年同期比3百万円の増収)となりました。営業利益は、商業施設向け賃貸のための開発費用が発生し、営業損失10百万円(前年同期は営業利益8百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

総資産は、前連結会計年度末より9百万円減少し3,659百万円となりました。これは主に未収入金の増加額145百万円並びに受取手形及び売掛金の減少額126百万円等によるものです。

負債は、前連結会計年度末より22百万円減少し2,866百万円となりました。これは主に短期借入金の増加額213百万円、支払手形及び買掛金の減少額170百万円並びに長期借入金の減少額85百万円等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末より13百万円増加し793百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加額15百万円等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ61百万円増加し144百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは33百万円(前年同期は432百万円)となりました。これは主にたな卸資産の減少額126百万円、売上債権の減少額126百万円及び減価償却費62百万円等の増加要因が、仕入債務の減少額170百万円及び未収入金の増加額145百万円等の減少要因を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは88百万円(前年同期は20百万円)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出78百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは117百万円(前年同期は472百万円)となりました。これは主に短期借入金の純増加額229百万円及び長期借入金の返済による支出101百万円等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は39百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000
計	6,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,510,000	3,510,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	3,510,000	3,510,000		

(注) 平成24年3月28日開催の第79期定時株主総会における決議に基づき、平成24年5月1日付にて単元株式数を200株から100株に変更しております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日		3,510,000		175,500		133,432

(6) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	平成24年6月30日現在	
		所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
住友金属工業株式会社	大阪府大阪市中央区北浜4-5-33	620	17.66
三徳工業株式会社	東京都千代田区有楽町1-12-1	379	10.80
株式会社埼玉りそな銀行	埼玉県さいたま市浦和区常盤7-4-1	157	4.47
武陽商工株式会社	埼玉県川越市新宿町5-13-1	116	3.30
株式会社山本本店	三重県桑名市中央町3-23	107	3.05
日東紡績株式会社	東京都千代田区麹町2-4-1	100	2.85
小森 誠一	東京都杉並区	76	2.16
成川 實	埼玉県川口市	74	2.11
鈴木 伍郎	愛知県名古屋市守山区	65	1.85
久永 君子	埼玉県川越市	57	1.62
計		1,751	49.87

(注) 上記のほか当社所有の自己株式353千株(10.06%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 353,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,149,700	31,497	
単元未満株式(注)	普通株式 7,300		
発行済株式総数	3,510,000		
総株主の議決権		31,497	

(注) 「単元未満株式」には、当社所有自己株式71株が含まれています。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 新報国製鉄株	埼玉県川越市新宿町 5 - 13 - 1	353,000		353,000	10.06
計		353,000		353,000	10.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	591,536	662,578
受取手形及び売掛金	<sup>2</sup> 723,966	598,366
製品	272,667	203,500
仕掛品	447,348	413,900
原材料	133,435	109,849
未収入金	116,578	261,090
その他	36,600	53,543
貸倒引当金	88	88
流動資産合計	2,322,041	2,302,738
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	386,923	411,023
土地	532,545	532,545
その他(純額)	335,497	328,419
有形固定資産合計	1,254,965	1,271,987
無形固定資産		
のれん	10,988	6,593
その他	4,102	3,352
無形固定資産合計	15,090	9,945
投資その他の資産	75,433	74,074
固定資産合計	1,345,488	1,356,006
資産合計	3,667,529	3,658,744
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<sup>2</sup> 714,087	<sup>2</sup> 544,005
短期借入金	1,323,472	1,536,558
1年内償還予定の社債	200,000	200,000
未払法人税等	2,170	1,353
賞与引当金	26,200	26,200
設備関係支払手形	16,628	20,870
その他	119,789	109,755
流動負債合計	2,402,346	2,438,741
固定負債		
長期借入金	193,912	108,502
退職給付引当金	113,021	121,513
その他	178,734	197,194
固定負債合計	485,666	427,209
負債合計	2,888,013	2,865,950

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	175,500	175,500
資本剰余金	133,432	133,432
利益剰余金	581,189	596,266
自己株式	121,379	121,422
株主資本合計	768,743	783,776
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,774	9,017
その他の包括利益累計額合計	10,774	9,017
純資産合計	779,516	792,794
負債純資産合計	3,667,529	3,658,744

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	2,500,349	1,477,165
売上原価	1,981,666	1,216,970
売上総利益	518,683	260,196
販売費及び一般管理費	271,200	253,173
営業利益	247,483	7,022
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,045	999
助成金収入	27	9,405
原材料売却益	14,671	3,240
保険差益	-	22,988
雑収入	16,914	15,386
営業外収益合計	32,657	52,018
営業外費用		
支払利息	19,897	15,515
雑支出	3,640	4,139
営業外費用合計	23,536	19,653
経常利益	256,603	39,387
特別利益		
固定資産売却益	1,023	-
特別利益合計	1,023	-
特別損失		
固定資産除却損	1,257	6,692
固定資産売却損	710	7,724
投資有価証券評価損	9,436	-
環境対策費	311,500	-
環境対策引当金繰入額	765,000	-
特別損失合計	1,087,904	14,415
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	830,277	24,972
法人税、住民税及び事業税	555	410
法人税等調整額	491,697	13
法人税等合計	491,142	423
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	339,135	24,548
四半期純利益又は四半期純損失( )	339,135	24,548

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	339,135	24,548
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	2,308	1,756
その他の包括利益合計	2,308	1,756
四半期包括利益	336,827	22,792
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	336,827	22,792
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	830,277	24,972
減価償却費	61,431	62,322
のれん償却額	4,395	4,395
有形固定資産除却損	1,257	6,692
有形固定資産売却損益( は益)	313	7,724
投資有価証券評価損益( は益)	9,436	-
貸倒引当金の増減額( は減少)	50	-
賞与引当金の増減額( は減少)	2,984	-
環境対策引当金の増減額( は減少)	751,500	-
退職給付引当金の増減額( は減少)	7,313	8,493
受取利息及び受取配当金	1,045	999
支払利息	19,897	15,515
売上債権の増減額( は増加)	303,734	125,600
たな卸資産の増減額( は増加)	97,177	126,201
仕入債務の増減額( は減少)	69,528	170,083
未収入金の増減額( は増加)	180,711	144,512
その他	75,517	19,383
小計	409,948	46,935
利息及び配当金の受取額	1,013	999
利息の支払額	21,568	14,247
法人税等の支払額	1,110	941
営業活動によるキャッシュ・フロー	431,614	32,746
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額( は増加)	-	10,000
有形固定資産の取得による支出	21,567	78,353
有形固定資産の売却による収入	1,813	2,000
その他	228	2,107
投資活動によるキャッシュ・フロー	19,982	88,460
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	574,900	228,660
長期借入金の返済による支出	101,580	100,985
自己株式の取得による支出	41	43
リース債務の返済による支出	1,632	1,707
配当金の支払額	19	9,169
財務活動によるキャッシュ・フロー	471,627	116,756
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	20,031	61,042
現金及び現金同等物の期首残高	73,962	83,336
現金及び現金同等物の四半期末残高	93,992	144,378

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間  
(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

(1) 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(2) 表示方法の変更

従来、不動産賃貸収入及び不動産賃貸原価については、「営業外収益」の「受取賃貸料」及び「販売費及び一般管理費」に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「売上高」及び「売上原価」に計上する方法に変更いたしました。

当該変更は、当社の本社工場跡地の有効活用を図り、安定的収益を得る事を目的として、不動産賃貸事業を主要事業の一つとして位置づけるため、当社定款の事業目的を変更したことに伴い、事業運営の実態をより適切に表示するために行ったものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表及び前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」の「受取賃貸料」に表示していた9,437千円は「売上高」に、「販売費及び一般管理費」に表示していた1,166千円は「売上原価」に組み替えております。

また、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた71千円は有形固定資産の「土地」に組み替えております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)	
1	受取手形割引高 238,673千円	1	受取手形割引高 26,395千円
2	連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったが、満期日決済が行われたものとして処理している。当連結会計年度末日満期手形の金額は次のとおりである。 受取手形 593千円 支払手形 237,165千円	2	四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったが、満期日決済が行われたものとして処理している。当第2四半期連結会計期間末日満期手形の金額は次のとおりである。 支払手形 74,634千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	
販売費及び一般管理費の主なもの		販売費及び一般管理費の主なもの	
役員報酬	35,151千円	役員報酬	34,152千円
従業員給与	54,496千円	従業員給与	56,062千円
賞与引当金繰入額	3,455千円	賞与引当金繰入額	3,393千円
退職給付費用	3,181千円	退職給付費用	3,578千円
研究開発費	35,538千円	研究開発費	30,929千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係		現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	602,192千円	現金及び預金	662,578千円
預入期間が3か月超の定期預金	508,200千円	預入期間が3か月超の定期預金	518,200千円
現金及び現金同等物	93,992千円	現金及び現金同等物	144,378千円



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月28日 定時株主総会	普通株式	9,471	3.00	平成23年12月31日	平成24年3月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	合計
	鑄造事業	素形材事業	不動産賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,360,391	1,130,521	9,437	2,500,349		2,500,349
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	1,360,391	1,130,521	9,437	2,500,349		2,500,349
セグメント利益	126,293	113,224	7,966	247,483		247,483

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	合計
	鑄造事業	素形材事業	不動産賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,017,838	446,807	12,520	1,477,165		1,477,165
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	1,017,838	446,807	12,520	1,477,165		1,477,165
セグメント利益 又はセグメント損失( )	40,216	56,752	9,513	7,022		7,022

(注) セグメント利益又はセグメント損失( )の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の本社工場跡地の有効活用を図り安定的収益を得る事を目的として、当社定款の事業目的を変更したことに伴い、報告セグメントを変更しており、不動産賃貸事業を追加しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は変更後のセグメント区分で記載しております。また、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、1 四半期連結財務諸表『追加情報』に記載の「表示方法の変更」を遡及適用して記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	
1株当たり四半期純損失金額	107.41円	1株当たり四半期純利益金額	7.78円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため、また、前第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(千円)	339,135	24,548
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(千円)	339,135	24,548
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	3,157,322	3,157,024

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月10日

新報国製鉄株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野 口 和 弘

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 久 保 隆

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新報国製鉄株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新報国製鉄株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

追加情報(2)表示方法の変更に記載されている通り、会社は、従来、不動産賃貸収入及び不動産賃貸原価について、「営業外収益」の「受取賃貸料」及び「販売費及び一般管理費」に計上していたが、第1四半期連結会計期間より、「売上高」及び「売上原価」に計上する方法に変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。